

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 51人

② 算数 51人

5 留意事項

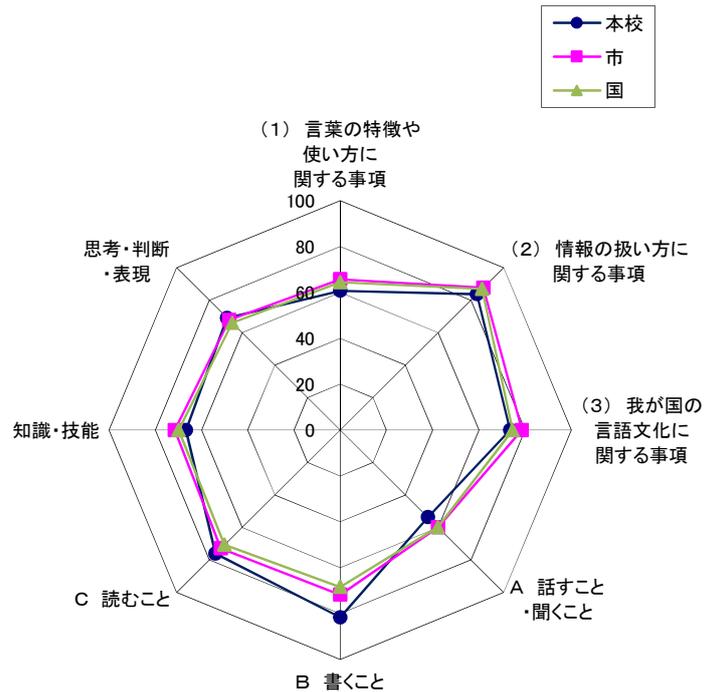
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	83.7	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	53.7	59.9	59.8
	B 書くこと	81.6	71.8	68.4
	C 読むこと	76.2	72.9	70.7
観点	知識・技能	66.7	71.5	69.8
	思考・判断・表現	69.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

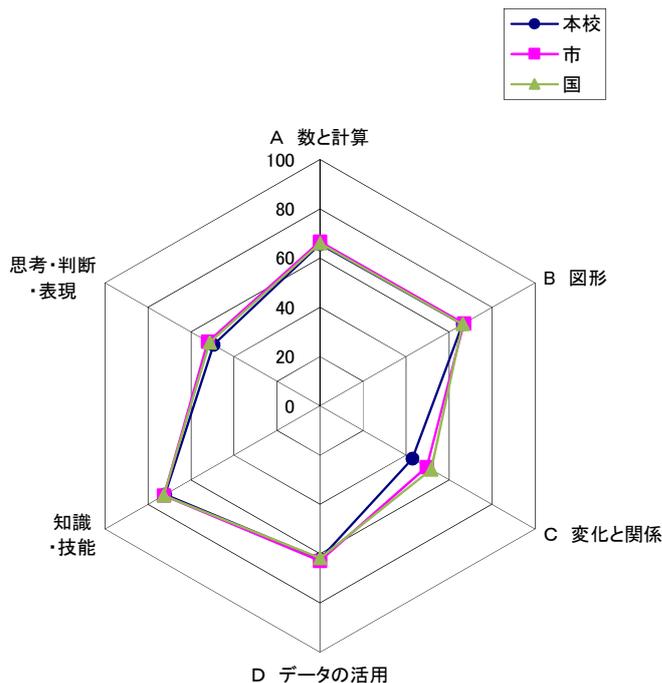
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は60.7%で、市の平均より5.0ポイント低い。 ○漢字を文の中で正しく使う問題(競技)の本校の正答率は49.0%で、市と比べると6.1ポイント高い。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題の本校の正答率は53.1%で、市の平均と比べて11.8ポイントと大きく下回っている。	・新出漢字を学習する際には同音異義語があることを知らせ、どの漢字を使うかを正しく選べるように引き続き指導していく。 ・主語と述語の関係について、長文の中でも正しく捉えることができるように、授業以外でも折に触れて考えさせることで正しく理解させていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は83.7%で、市の平均より3.9ポイント低い。 ●原因と結果など、高山さんのメモについて情報と情報がどのように図に表されているかを問う問題での本校の正答率は83.7%で、市の平均より3.9ポイント低い。	・国語科だけでなく、総合的な学習の時間や社会科の授業等、他の教科においてもウェビングマップなどを作る機会を設け、語句と語句とを関係付けて捉えられるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は73.5%で、市の平均より5.1ポイント低い。 ●読書が自分の考えを広げること、どのように役立つかを問う問題の本校の正答率は73.5%で、市の平均よりも5.1ポイント低い。	・引き続き日常的に読書に親しませるとともに、読書週間や朝のスピーチ等を通して友達の考えに触れることで、読書が自分にと及ぼす効果について、多角的に考えさせる機会をもてるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は53.7%で、市の平均より6.2ポイント低い。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを問う問題の本校の正答率は55.1%で、市の平均よりも3.9ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを問う問題の本校の正答率は53.1%で、市の平均よりも12.3ポイントと大きく下回っている。	・引き続き、日頃から意見を交流する機会を多く設け、その際には話し方の工夫として、相手の言葉を引用したり、実物を示したりするなど様々な方法があることに気付かせていく。 ・意見を交流する際には、話す内容をメモに書き起こして整理し、その中から必要な内容を取捨選択したり、相手の反応に応じた返答をしたりできるように習慣付ける。
B 書くこと	平均正答率は81.6%で、市の平均より9.8ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う問題の本校の正答率は79.6%で、市の平均よりも20.3ポイントと大きく上回った。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類・関係付け、伝えたいことを明確にすることができるかを問う問題の本校の正答率は83.7%で、市の平均よりも0.6ポイント低い。	・引き続き、機会を捉え、与えられた情報を使って、条件を満たした文章を書く活動に取り組みさせるようにする。 ・文章を書く際には、情報を集めるだけでなく、集めた情報の中から共通点を見出したり相違点に着目したりするなどして、自分の目的に応じて書くことの意識付けを図っていく。
C 読むこと	平均正答率は76.2%で、市の平均より3.3ポイント高い。 ○物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題の本校の正答率は81.6%で、市の平均より6.5ポイント高い。 ●話し合いの参加者が、物語の何に着目したのかについて説明したもとして、適切なものを選択する問題の本校の正答率は73.5%で、市の平均より1.7ポイント低い。	・物語における読み取りでは、人物の相互関係や心情、描写を捉えたり、表現の効果を考えたりすることに重点を置いた指導を引き続き行っていく。 ・物語以外の文章(説明文・話し合いの記録等)を読む際においても、筆者や話し手が何に着目しているのかを正しく捉えられるように指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.6	66.7	66.0
	B 図形	66.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	42.9	49.6	51.7
	D データの活用	62.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	49.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は65.6%で、市の平均より1.1ポイント低い。</p> <p>○$350 \times 2 = 700$であることを基に、350×16の積の求め方と答えを書く問題の本校の正答率は63.3%であり、市の平均より2.3ポイント高い。</p> <p>●$540 \div 0.6$を計算する問題では本校の正答率は65.3%であり、市の平均より3.7ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、上央小算数検定などを中心に、計算練習を取り入れ、基本的な計算力の向上を図っていく。 ・小数を含む割り算の解き方を再確認し、反復練習を行う。また、様々な文章問題に触れさせ、応用問題への対応力を高める指導を行う。
B 図形	<p>平均正答率は66.3%で、市の平均より0.6ポイント低い。</p> <p>○円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題の本校の正答率は75.5%であり、市の平均より2.9ポイント高い。</p> <p>●直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題の本校の正答率は30.6%で、市の平均より7.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したりすることを通して、定着を図る。 ・球や円柱などの形状を考慮した計算方法を再確認し、公式の使い方の指導や実際の立体を用いて視覚的に理解できるような活動を取り入れる。
C 変化と関係	<p>平均正答率は42.9%で、市の平均より6.7ポイント低い。</p> <p>●家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題の本校の正答率は22.4%で、市の平均より5.6ポイント低い。</p> <p>●家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く問題の本校の正答率は44.9%で、市の平均より7.0ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公式「速さ＝距離÷時間」を使った計算練習に取り組みせるとともに、速さの概念を視覚的に理解させる活動を取り入れる。 ・日常生活の場面で速さを話題にした問題に取り組む際に、どのように速さを計算し、比較するかを具体的に指導する。 ・自分の考えを、筋道を立てて分かり易く説明したり式や言葉を用いて記述したりする機会を日常的に設けていく。
D データの活用	<p>平均正答率は62.2%で、市の平均より0.7ポイント低い。</p> <p>○折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く問題の本校の正答率は53.1%で、市の平均より6.2ポイント高い。</p> <p>●示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予測日を求める式を選び、開花予想日を書く問題の本校の正答率は40.8%で、市の平均より8.6ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予測に必要な数式の使い方や計算手順を丁寧に説明し、問題の条件を正確に理解させ、それをどのように数式に反映させるかを指導する。 ・問題の意図する内容を正しく読み取る力に課題が見られる。様々な教科で、読み取ったことを自分の言葉で説明する機会を多く設定し、読み取る力の定着を目指していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は88.2%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対する肯定的な回答は100%となり、県・全国平均を上回っている。これは、登下校や縦割り班での活動、委員会活動、学校行事等、様々な場面で、児童が高学年としての役割を担う機会を多く設けていることや、それに対して児童一人一人が責任をもって活動に取り組み、協調性や自己肯定感が高められているからだと考えられる。今後も、互いに協力し励まし合いながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教職員間で共有し、励ましたり称賛したりすることで、課題に対して諦めずに粘り強く取り組んでいこうという気持ちをもてるようにしていく。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答は100%となり、県・全国平均を上回っている。これは、学校全体でのいじめに対する指導やいじめゼロ強調月間等の継続した取り組みから、いじめは絶対にしてはいけないことだという意識が児童に定着しているからだと考えられる。今後も継続して指導し、いじめ根絶に取り組みんでいきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答は100%、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」に対する肯定的な回答は80.4%、「友達関係に満足していますか」に対する肯定的な回答は96.1%となり、県・全校平均を上回っている。これは、友達との関わりを大切にしてきた学校や学級の取組の成果と考えられる。また、授業における協働的な学びとして、探究的な学習や体験活動を通して他者との意見交換などの学び合いを体験し、友達と関われることのよさを感じているからだと考えられる。今後も様々な学びができる学習を積極的に取り入れていくようにする。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」に対する質問では、「2時間以上視聴している」と回答した児童の割合は39.2%で、県・全国平均を上回っている。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」に対する質問では、「2時間以上使用している」と回答した児童の割合は、50.9%で、県・全国平均を上回っている。テレビやDVD、動画などの視聴時間やテレビゲームで遊ぶ時間が長いことで、学習時間が十分に取れていないことが考えられる。児童に家庭における動画視聴やテレビゲーム使用の時間について重点的に指導を行うとともに、家庭におけるルールの設定や使用時間についてノースマホデーの際に家庭で話し合う機会を設けてもらう等、家庭と連携して対応していきたい。

●「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」に対する肯定的な回答は78.4%で、県平均より6.9ポイント、全国平均より4.8ポイント下回っている。条件を理解し、条件に応じた文章を書く活動を意図的に授業の中で設定していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の習得	姿勢・話し方・聞き方等の学習のきまりを徹底させたり、朝の学習の時間を活用して、「上央小算数検定」や音読等の活動を実施したりしている。	国語の「知識・技能」の正答率は66.7%で、市の平均と比べて4.8ポイント、全国の平均と比べて3.1ポイント下回ったが、算数の「知識・技能」の正答率は72.1%で、市や全国の平均とほぼ同等だった。
「上央小授業スタンダード」の活用と学び合う活動の充実	全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開するようにしている。課題解決の場面では、ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定・工夫し、学び合う活動を充実させるようにしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」と設問に肯定的に回答した児童の割合は96.1%で、全国の割合を9.8ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、読解力が低く、教材文や設問を正しく理解する力に課題が見られた。	読書活動の充実	朝の読書の時間など読書の時間に、自分の好きな本だけではなく学年お勤めの本を読む「チャレンジ読書」に積極的に取り組ませるなどして、まとまった文章を読む習慣を身に付けさせる。
教科に関する調査から、示された情報を基に、資料から必要な数値を読み取って考察する問題の正答率が低く、課題が見られた。	資料を読み解く力をつける指導の充実	算数だけでなく、他教科でも、表やグラフなどの資料から分かることを考察して書いたり話し合ったりする活動を取り入れ、資料を読み解く力を身に付けさせる。